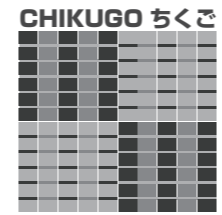


項目	ページ	タイトル
01	計画概要	01 計画概要・設計と条件
02	配置計画	02 建物配置の考え方
03	建物構成	03 平面・断面の考え方
04	執務室計画	03 執務室計画
05	平面計画	04 各階 平面図
06	環境計画	05 環境計画
07	立面・外観計画	06 外観デザイン



# 筑後市新庁舎 基本設計概要版

Chikugo City Hall  
2026.03.31

**K U M E**  
S E K K E I

# 01

## 計画概要

### 筑後の魅力をつなぎ、市民と共創する“まちづくりの核”となる庁舎

#### 建築計画

計画地は筑後市中心に位置し、周辺には自然・歴史・スポーツなど多彩な魅力が広がります。新庁舎は行政機能にとどまらず市全域の魅力をつなぐ場と位置づけ、市内の施設や地域資源と連携して誰も気軽に立ち寄り、思い思いに過ごし交流できる空間を創出し、市民と共に創る「まちづくりの核」を目指します。

#### ■ 敷地概要

建設地	： 福岡県筑後市大字山ノ井898、他
敷地面積	： 約19,100㎡（測量後に確定）
指定建ぺい率	： 60%
指定容積率	： 200%
都市計画区域	： 第2種住居地域
防火地域	： 指定なし（法22条指定）
日影規制	： あり（4h、2.5h、4m）
道路幅員	： 西側（国道209号線）約12.5m 南側（市道458号線）約8m

#### ■ 建築概要

主要用途	： 庁舎（事務所）
工事種別	： 新築 ※東庁舎 改修
構造	： RC造 一部S造（基礎免震構造）
建築面積	： 約2,110㎡
延床面積	： 約7,400㎡ ※精査中
階数	： 地上4階（塔屋あり）
最高高さ	： 19.00m
基礎種別	： 杭基礎想定（杭長は地盤調査結果による）
昇降機	： 17人乗り1台（車椅子対応） 17人乗り1台（スリッパ-対応、人荷用）
付帯施設	： 連絡通路（地上）・駐輪場・公用車庫・防災倉庫 約300㎡ ※検討中

#### ■ 駐車場概要

駐車台数	： 来庁者用170台／職員用250台／ 公用車用80台／まごころ駐車場8台 ※調整中
駐輪台数	： 100台

#### ■ 空調換気設備計画概要

熱源	： 空冷ヒートポンプチラー・井水熱源水冷ヒートポンプチラー
空調	： 市民エリア／冷温水式床輻射併用床吹出空調方式 窓口・執務室／床吹出空調方式 会議室等／個別空調方式（ビル用マルチエアコン） 議場／個別空調方式（ビル用マルチエアコン）
換気	： 第1種換気、第2種換気、第3種換気
排煙	： 自然排煙
中央監視	： 空調・衛生・電気監視端末、BEMS

#### ■ 給排水設備計画概要

給水設備	： 給水系統：上水（市水）、雑用水（井水） 給水方式：上水（受水槽＋加圧給水方式） 雑用水（雑用水槽＋加圧給水方式） ※災害時給水機能確保
排水設備	： 屋内：汚水雑排水合流式／屋外：雨水・汚水分流式 災害用汚水貯留槽設置
給湯設備	： 電気温水器による個別給湯方式
衛生器具	： 節水型衛生器具
消火設備	： 易操作性1号屋内消火栓（全館）／消火器（全館）別途工事

#### ■ 電気設備計画概要

受電方式	： 普通高圧 三相3線式 6.6kV 60Hz 1回線受電
受変電設備	： 屋内キュービクル式（電気室内に設置）、変圧器総容量1,550kVA
非常用発電機設備	： 屋外発電機 発電機容量350kVA（想定） 三相交流 210V 燃料：A重油（想定） ※備蓄燃料タンクを併設し、3日間連続運転を可能とする
太陽光発電設備	： 太陽光パネル設置（屋上） 発電電力は自家消費でピークカットに寄与 蓄電池設備システムと連携し、特定負荷に給電
照明設備	： 全館LED照明、JIS照度基準に準拠した照度 タスク・アンビエント照明、サーカディアン照明、初期照度補正制御 外光（昼光）利用制御、プログラムタイマ制御、在／不在制御
コンセント設備	： 一般事務室／二重床用配線器具＋OAタップ
通信設備	： 構内情報通信網設備（LAN）、構内交換設備、情報表示設備 映像・音響設備、拡声設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備 監視カメラ設備、火災報知設備、電気時計設備、入退室管理設備
別途工事	： 別紙参照（本編 電気設備概要参照）

# 02

## 配置計画

### 「筑後テラス」が賑わいの中心となり、緑豊かな「アプローチモール」が周辺をつなぐ

#### 建築計画

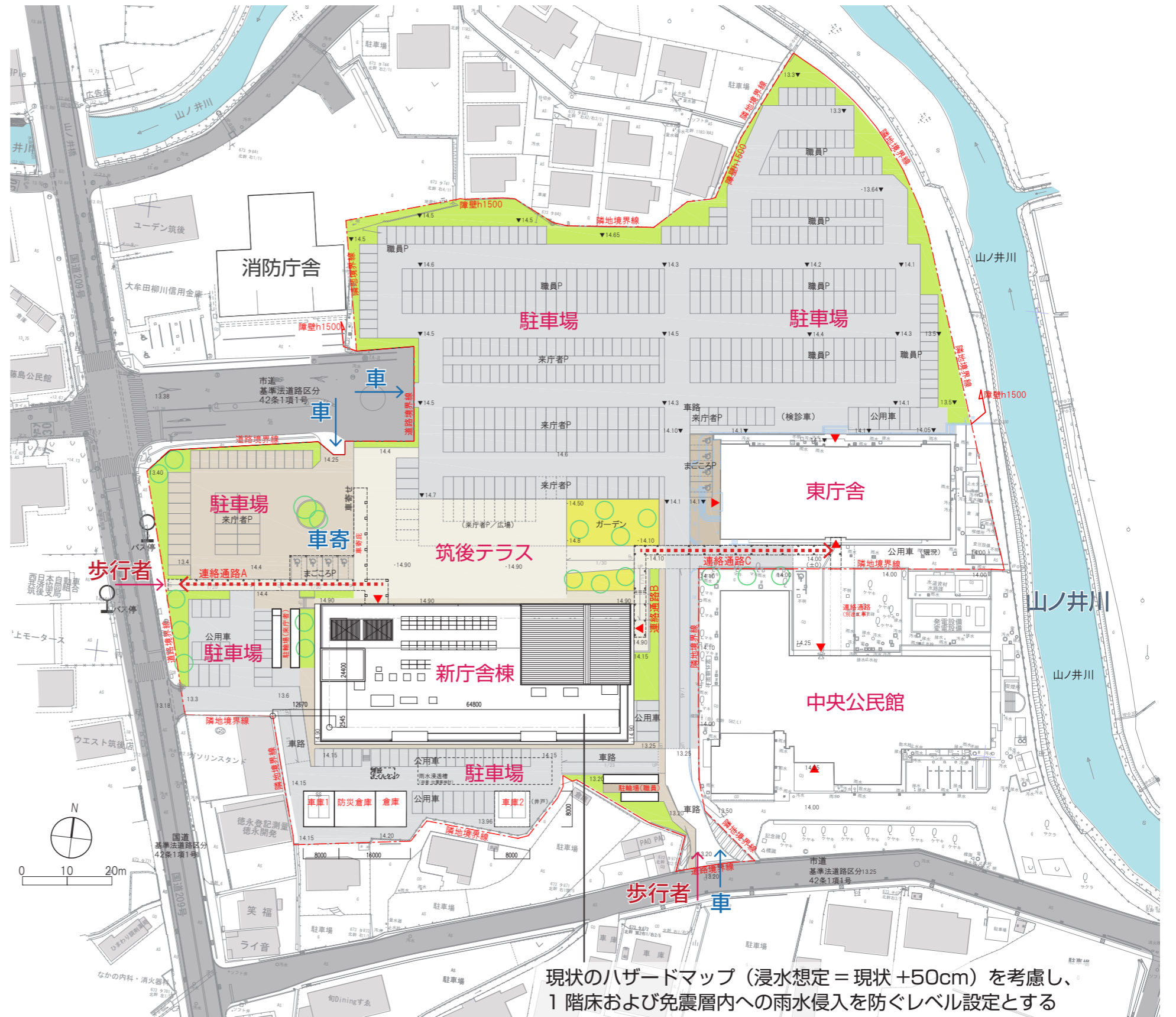
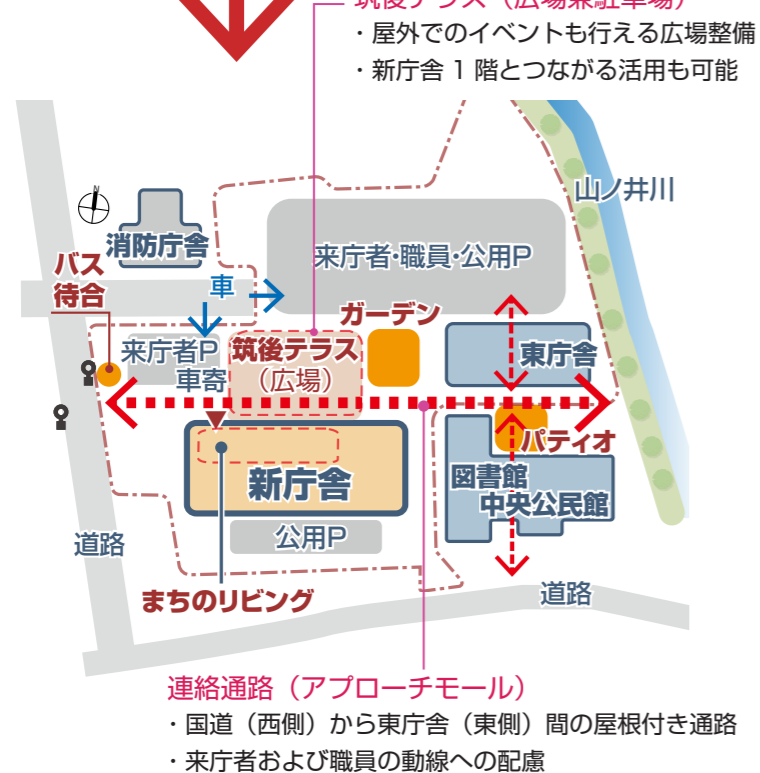
新庁舎は既存庁舎の南側に配置し、正面に内外一体の「筑後テラス」を設け賑わいを創出します。車寄せと車いす駐車場は出入口近くの西側に集約して雨に濡れない動線を確保します。「筑後テラス」を核に国道から敷地を東西に結ぶ「アプローチモール」を計画し、緑の居場所を点在させ施設間の連携を高めます。

- ・ 既存施設の運用を妨げず、限られた建設範囲での新庁舎配置
- ・ 敷地内の他施設との接続に配慮した歩行者の屋外動線を確保

#### 新庁舎 建設時+運用開始時



#### 全体運用時



# 03

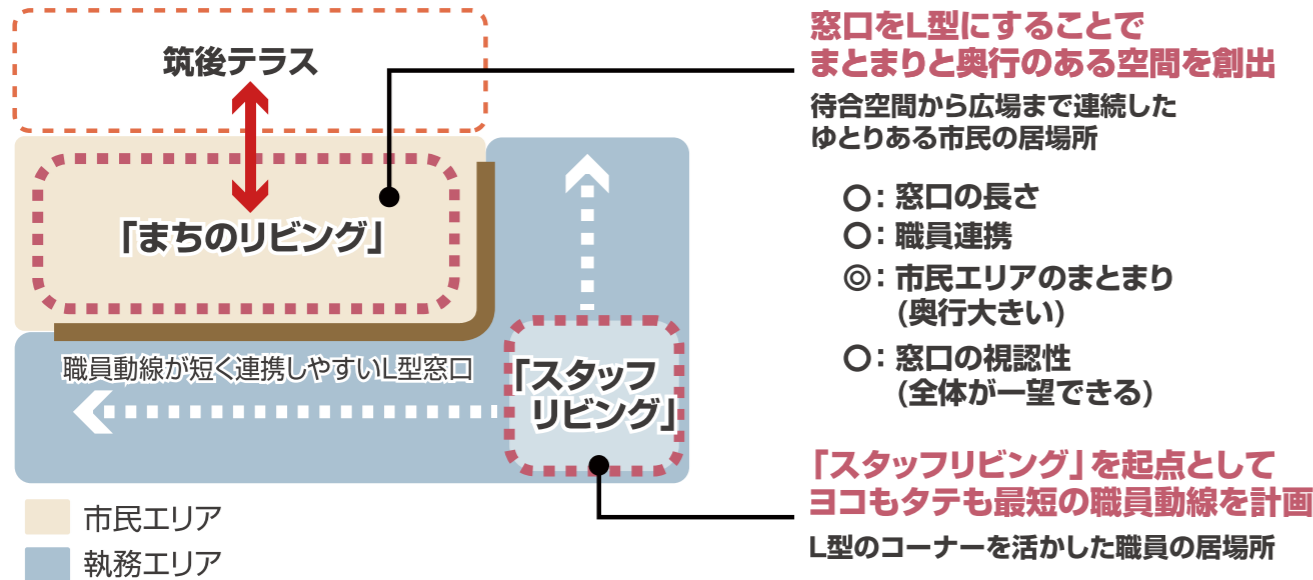
## 建物構成

みんなに開かれた多目的な「まちのリビング」と、職員の連携を支える「スタッフリビング」

### 建築計画

窓口をL型に配置することでまとまりと奥行きのある「まちのリビング」を計画。執務空間のコーナーには職員のための「スタッフリビング」を配置します。限られた敷地を有効活用するため、共用部を吹抜けで一体化し各階をつなげる計画とします。吹抜けを介することで分かりやすく、かつ豊かな市民空間を実現します。

#### 平面構成の考え方

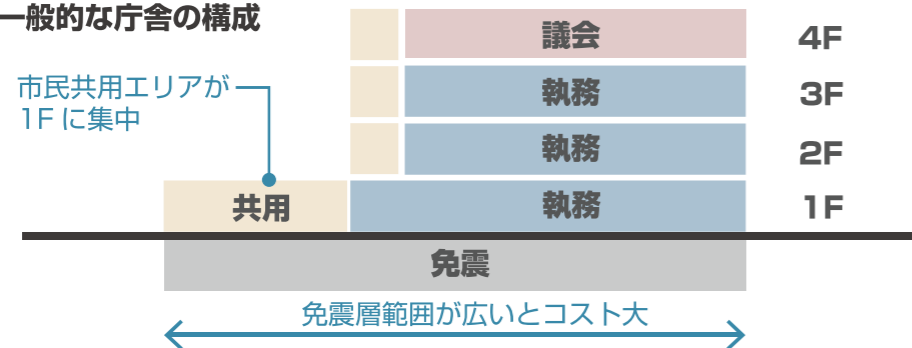


#### 断面構成の考え方

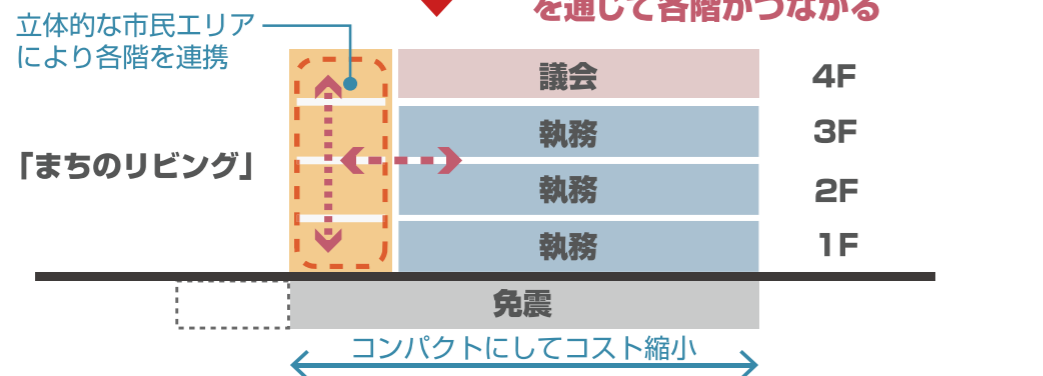
##### 課題点

- 市民空間を1Fに集約すると免震層が広がる
- 敷地の制限もあるため市民空間を十分に確保できない

##### 一般的な庁舎の構成



##### 本計画の構成



# 04

## 執務・窓口環境計画

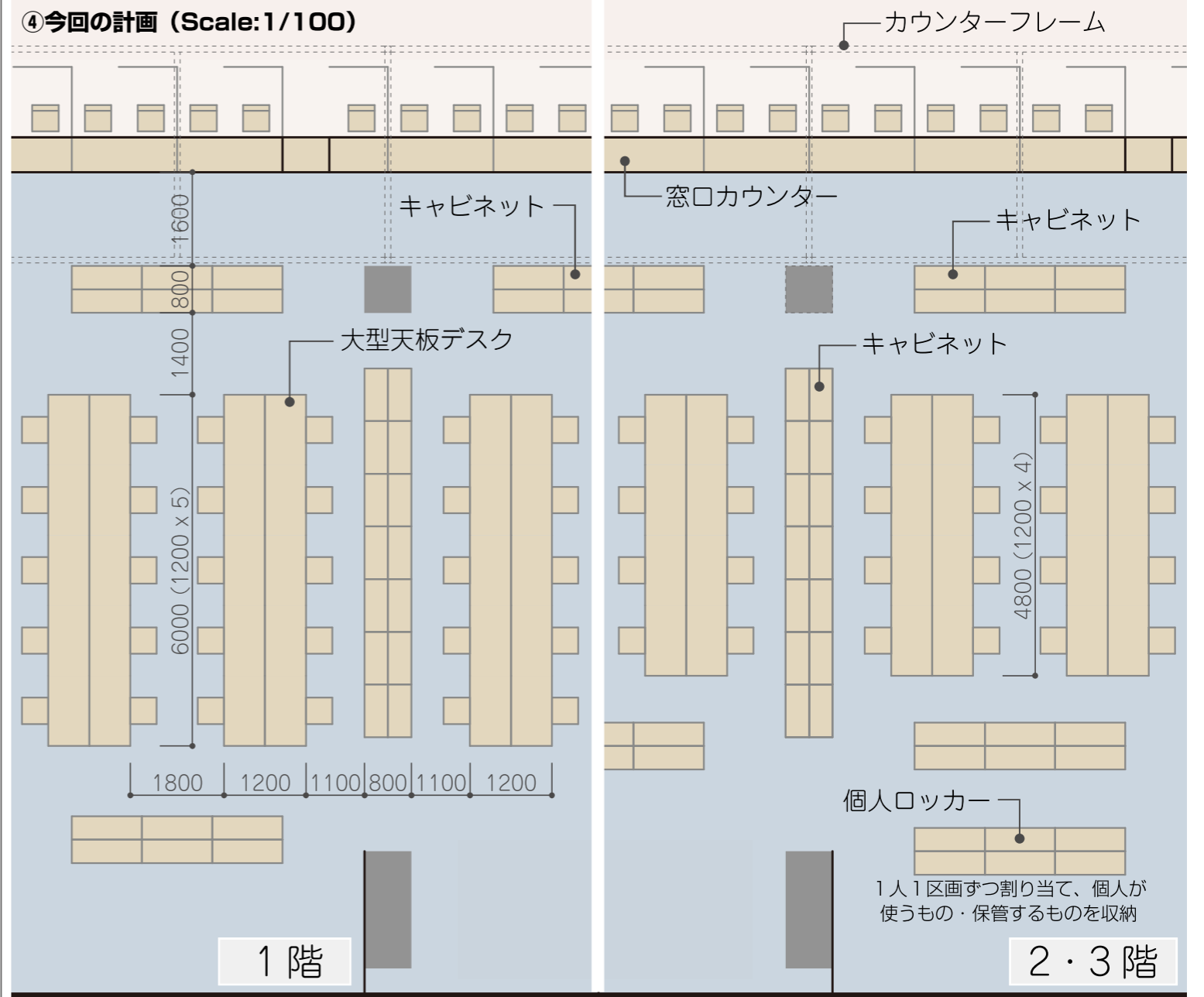
フレキシブルなオフィスレイアウトによる執務環境計画

### 建築計画

時代の変化、ニーズの変化、職員の働き方の変化、組織改編による人員の変化などに対し、フレキシブルかつ柔軟に対応可能な執務環境計画を構築します。これまでの「1人1デスク」というスタイルを改め、限られたスペースを最大限有効に活用できるレイアウトにより高効率な執務空間を実現します。

#### 大型天板デスクによるユニバーサルプラン

- レイアウト変更を最小限に抑えながら、建築モジュールに基づいて整然と什器レイアウトされた空間に、組織・人を配置していく考え方で
- PCを使用する業務が中心となっている現状の執務形態に合わせて、ひとり当たりのデスク幅を1200mmとし、窮屈さを感じないレイアウトとします
- 机上の整理整頓がしやすくPCを据えたままでも資料を広げることができるスペース確保が可能となり、業務効率の向上を図ることができます



ユニバーサルプランは、将来の組織改変にも柔軟に対応します

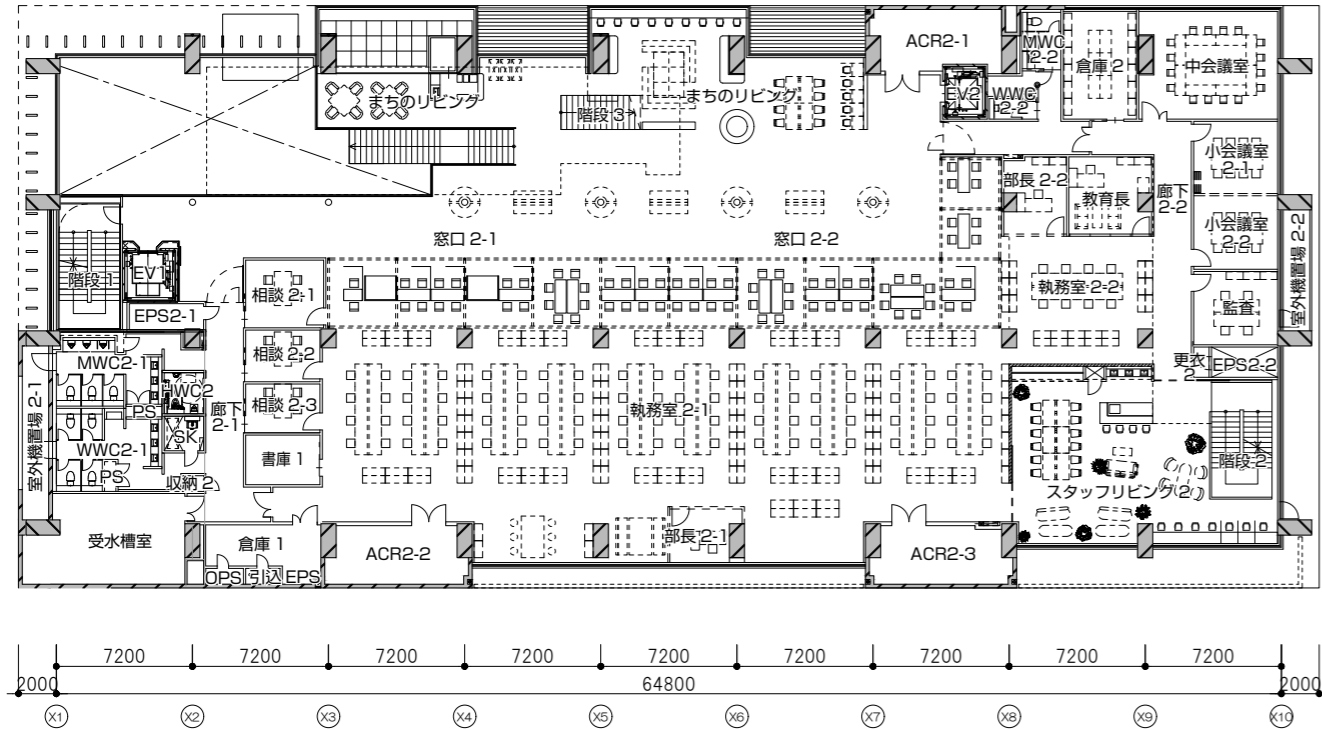
# 05

## 平面計画

### 限られた建物面積の中で、必要な室を適切な位置にレイアウト

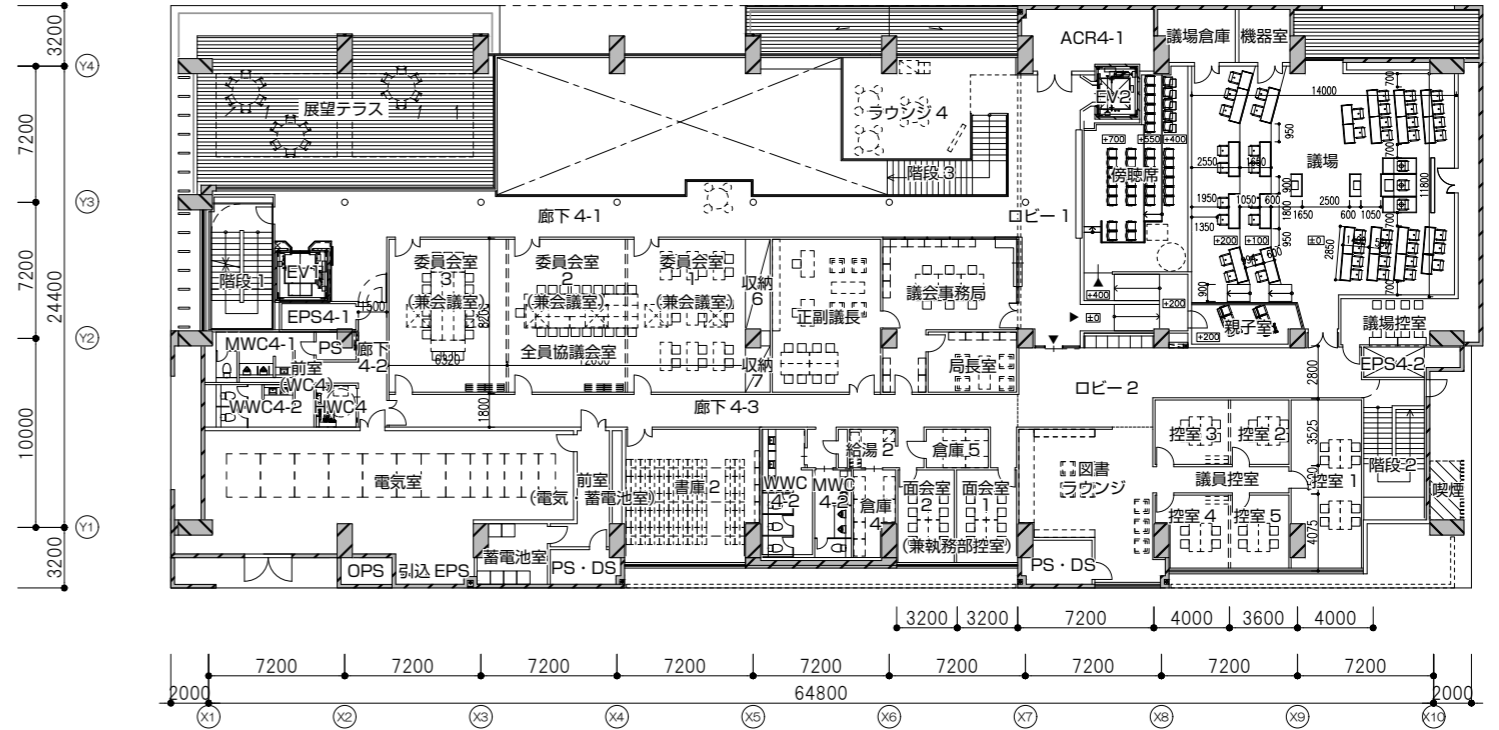
#### 建築計画

来庁者にとっても職員にとっても、利用しやすく快適な空間を実現するため、必要な室を適切な位置にレイアウトしております。  
限られた面積を最大限に活用するため、複数の利用形態にて運用可能な室を随所に計画しました。



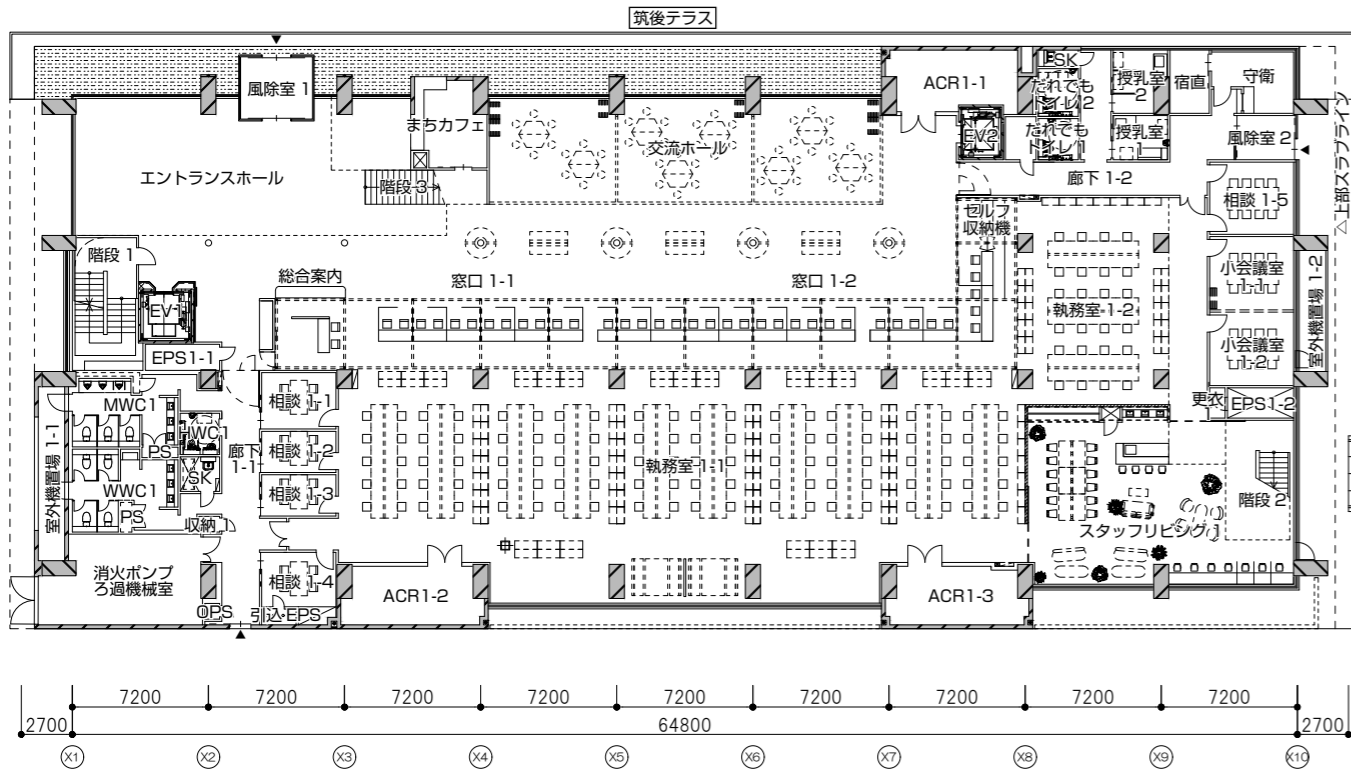
#### ■ 2階平面図

市民の空間は多目的に活用できるよう、子育てラウンジや図書ルーム、学習ラウンジなど多彩な空間を計画（内容については今後も継続協議）子育て世帯にも安心して利用できるよう用途・機能を計画しています。



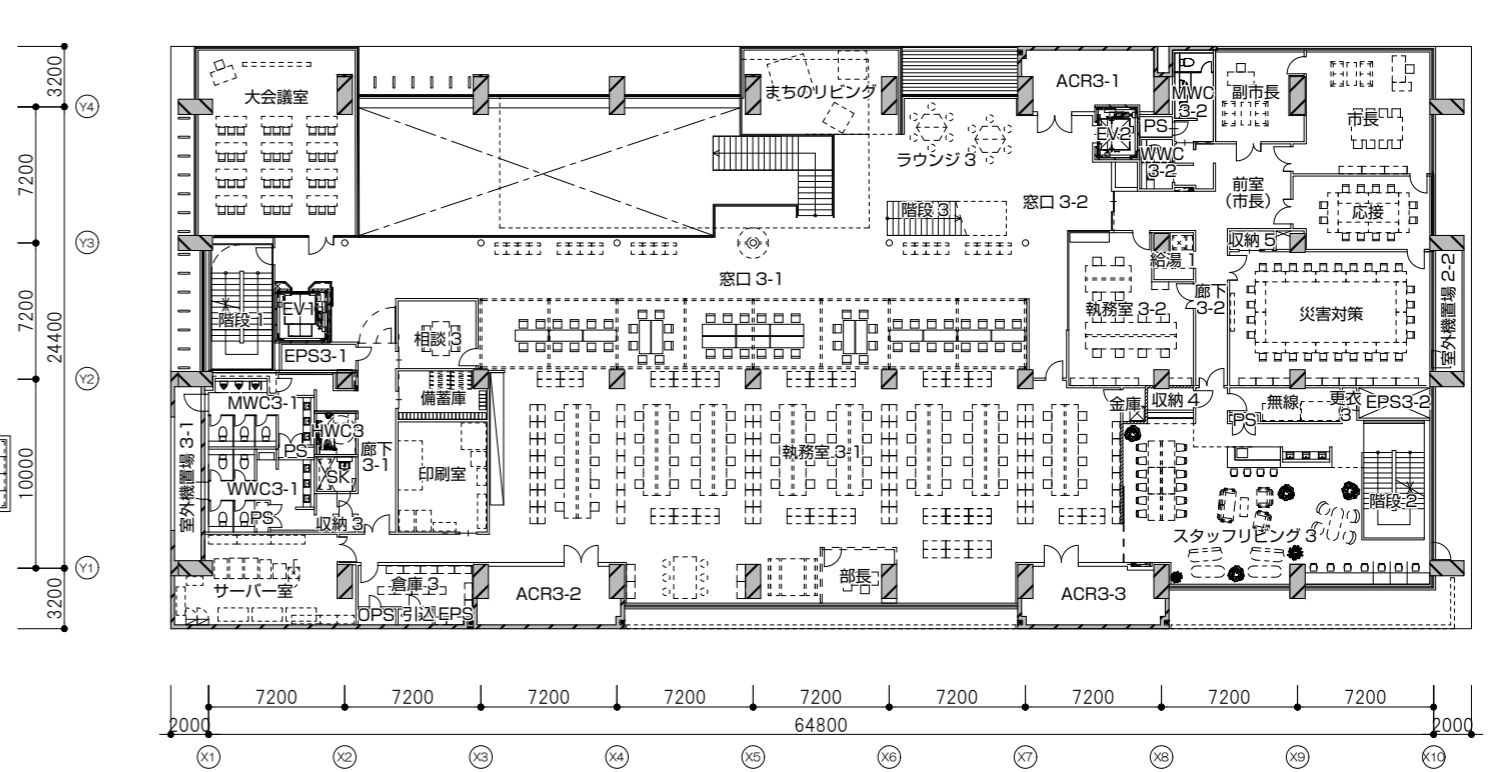
#### ■ 4階平面図

議場をはじめとした議会関係の諸室を4階に集約して計画しています。また「室の最大限の活用」として、委員会室は会議室としても利用できるよう、両面の廊下からアクセスできる計画としております。



#### ■ 1階平面図

各動線からの視認性をしっかりと確保した平面計画としています。相談室は市民からも職員からも使いやすい計画とし、十分な広さの待合エリアを設けることで、誰もが安心して使えるプランニングを構築しています。



#### ■ 3階平面図

市長室や応接室、災害対策室等の中核となる機能を3階のセキュリティエリアに集約して計画しております。また、現在 東庁舎にあるサーバー室を新庁舎に移設することで災害時の安全性を強化します。

# 06

## 環境計画

### 筑後市が擁する自然の力を活かし、省エネルギー・省CO<sub>2</sub>を目指した環境にやさしい庁舎

#### 建築計画

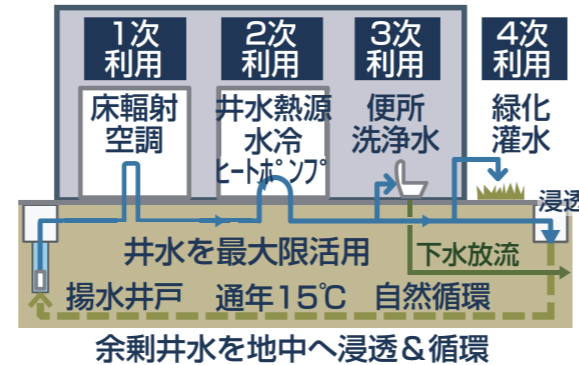
筑後市の地域特性を多角的に分析し、強みである豊富な地下水資源や安定した風向きを活用する計画とします。

自然エネルギーを活用した効率の良い設備計画とすることで、快適性を担保しながらの省エネを実現。また、同時に高い防災性も兼ね備えた災害に強い庁舎を目指します。

## 1. 筑後市の自然と共生し、地域ポテンシャルを活かす

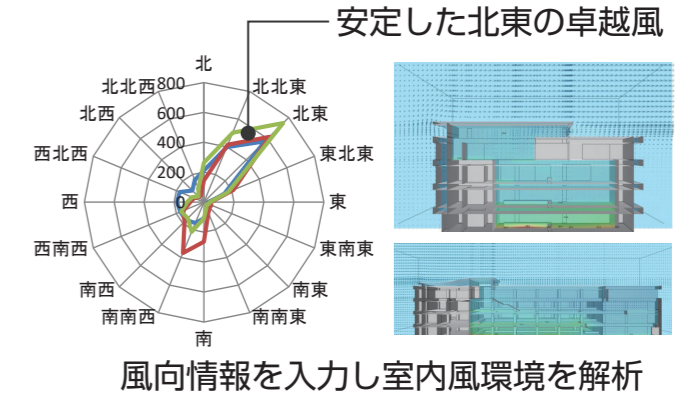
### ■ 地下水

筑後市の2つの浄水場から市内へ供給される市水の水源は地下水です。今回の市庁舎建設にあたっては敷地内に揚水井戸を新たに掘削し、井水を空調やトイレ洗浄水へと活用する省資源・省エネルギーなシステムを構築します。



### ■ 風向き

自然換気が有効となる中間期においては、北東からの風が主風向となります。北東からの風を上手に室内に取り込み自然換気を促進させることで空調の稼働時間を短縮、ランニングコストの低減を実現します。

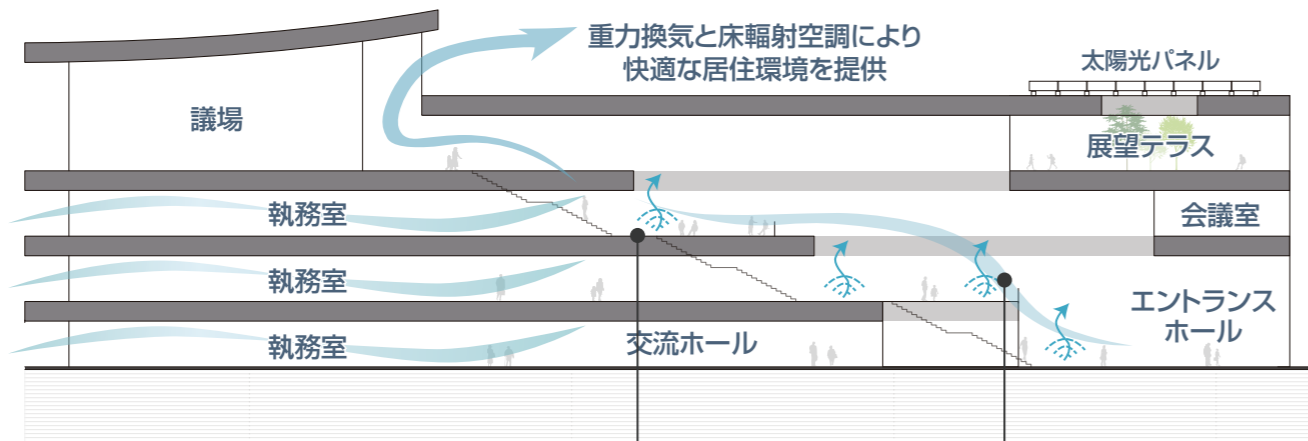


## 2. 快適性を犠牲にしない省エネ計画を目指す

ガマンの省エネではなく、快適な室内空間を実現しながら省エネルギー性能を確保することが重要です。今回は、輻射空調を部分的に採用しながら、居住域空調を主体として計画することで、快適性と省エネルギー性の両立を目指します。

### ■ 適材適所の照明計画

執務室エリアは空間全体の照度を抑えつつも作業面照度を確保できる照明計画を想定。また自然光に近い光環境を整えるために一部照明には調光調色機能を取り入れ、生体リズムに適した光環境を確保しつつ、照度を抑えることで省エネ化を図ります。



### ■ 輻射空調

床面温度を調整することで、体感温度を快適に保ちます。大空間の空気全体を空調することなく快適性を向上することができ、省エネにも寄与します。

### ■ 居住域空調

空間全体を空調するのではなく、人が活動する範囲のみを効率的に空調できる床吹出空調を採用。空調する範囲を居住域に限定することで、省エネ性を向上させます。

## 3. 環境性能を向上させ、災害に強い庁舎をつくる

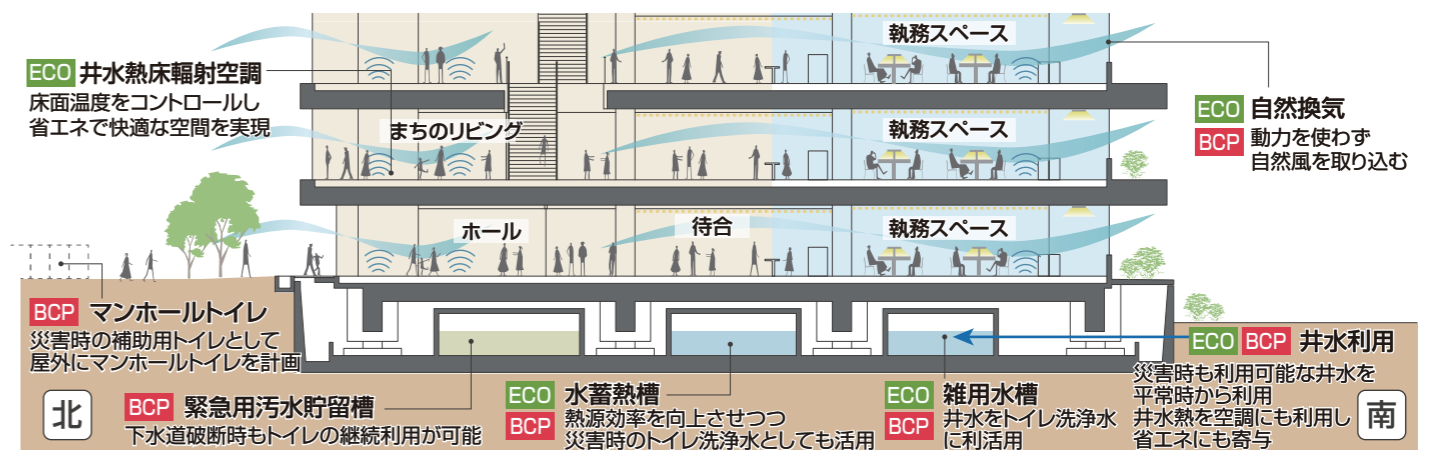
環境性能を向上させ省エネルギーな建築をつくることにより、災害時でも少ないエネルギーで運用することが可能となります。また、平常時に利用しているものを災害時にも、さらに災害を見据えて用意したものを平常時にも活用することで、イニシャルコストの有効活用を図りつつ災害時のスムーズな運用を可能にします。

### ■ 蓄電池

太陽光発電システムに蓄電池を組み込み、災害時の非常電源として活用可能な計画とします。

### ■ 雨水浸透

ゲリラ豪雨など想定外の雨災害に備え、敷地内に雨水浸透槽を設け、雨水管本管への雨水流出を抑制します。また、降雨がない平常時は空調で熱利用した井水を排水・浸透させ、地下水の涵養に努めます。



省エネ要素とBCP要素の兼用設備イメージ

# 07

## 立面・外観計画

### 筑後の風土に根差したシンプルかつ機能的なデザイン

建築計画

外観は、機能性に基づいた、伸びやかな水平庇を基調とし、頂部にある議場は、背景の山々や、筑後の風を意識した形状となっています。西日や南からの直射日射による負荷は縦型ルーバーで制御し、内部の空調負荷を低減しながら、外観的な特徴とします。

